

ご支援くださっている皆さまへ

が続いていますが、お元気ですか？

早いもので創刊から2か月が経ち、「石巻復興きずな新聞」も第3号になりました。

記事を書いてくださる方、取材に応じてくださる方、配布に協力してくださる地元のボランティアさんや団地の住民さん、県外からボランティアに来てくださる方、メディアの方、行政の方… いろいろな方と関わりを持ちながら活動を継続することができ、幸せを感じる毎日です。

7月より、県外からの団体ボランティアの受け入れを開始しました。

参加して下さったのは、2013年から定期的に新聞配布をお手伝いして下さっている、東京の武蔵野大学さんと埼玉の浦和学院高校さん、そして今年初めて参加して下さった杏林大学さんなどの学生ボランティアさんです。

今日は、武蔵野大学の学生ボランティアさんに、活動を終えて「印象的だった出来事」を書いてもらいましたので、それをご紹介しますと思います。

=====

もっとも印象的だったのは、「私たちとお話しをできたことが本当に嬉しかった」と言ってくださった方と出会えたことです。私がまわった仮設住宅は、団地の半分以上が空き家のところが多かったので、仮設住宅に残っている方のほうがとても少なかったです。そのため仮設住宅に残っている方、その中でも特に一人暮らしの高齢の方は、とても寂しそうにしていました。だから私たちのようなボランティアが月に一度お話を聞くことが励みになっているのかな、と感じました。私も少しは力になれたのかな、と思うととても嬉しかったです。

=====

最も印象的だったことは2つあります。1つ目はお茶っこのに上がりさせてくれたおばあちゃん。とても明るくて他愛もない会話をしていました。けれど、帰るってなった時に、今まですごく元気に、普通に話していたおばあちゃんが言葉をつまらせて泣いたときです。1時間弱で、普通に仲良くおしゃべりをしていただけなのに、別れをとても悲しんでくれて、たぶんとてもさみしかったんだなと実感しました。空き家になっていく仮設と、震災での経験など、いろいろなものが、組み合わさって私たちがまだ感じるさみしさとは、違うのだろうなと思いました。

2つ目は日和山公園から見た景色です。まちなかは建物もあって一見復興は進んでいます、沿岸部は何もなくなってしまった、流されてしまったことが見てわかります。実際に行ってみて、初めて分かること、感じることもあるのだと思いました。

=====

様々な事情、様々な生活の仕方をしている方がいらっしゃいましたが、やはりどの方もどことなく寂しげな方ではありました。楽しく世間話をしてくださる優しい方がほとんどでしたが、楽しい会話の中にも垣間見れる辛さがありました。ですが、私たちと話しているうちに笑顔になっていってくれたり、別れる時に「ありがとう」と言ってもらえると、本当に温かい気持ちになれます。住民さんとの会話は色々な気持ちにさせられます。新聞をずっととっておいてくれたり、来たボランティアの写真を撮って、来た日にちを覚えてくださる方もいました。住民さんにとって私たちが、「家族でも友達でもないけれど何でも話せる人」になりたい、話せる場を与えてあげよう、と思うのと同時に、住民さんが私たちにもたらししてくれるものも大きなものであると感じました。

=====

私が一番印象に残ったのは万石浦団地の住民さんのお話です。その方は、私が「東京から来た」ということを伝えたら、震災時の事について色々教えて下さりました。自分は津波が来たときどこにいて、何をしていたのか、次の日から、周りの人と一緒に捜索活動を始めてどんな光景を見たのか等、テレビでは教えてくれないようなところまで事細かく話してくださいました。現地に行かないと分からないことはやはり沢山あると思いました。けれど、自分は経験したことのない辛いことを言われると何て答えればいいのか分からなくなります。あまり深く考えすぎず、傾聴することが大事なのかなと思いました。

=====

この活動は、ボランティアの満足や成長を目的に行っているわけではありませんが、結果として、参加して下さったボランティアが様々なことを見て、聴いて、感じて、多くのものを持ち帰ってくれるのは、嬉しい限りです。

現在は余力がないので団体ボランティアしか受け入れしていませんが、今年の秋ごろより、個人ボランティアの受け入れも開始したいと考えています。そのときはぜひ、皆様も石巻にいらしてくださいね。

2016年8月20日
石巻復興きずな新聞舎
代表 岩元暁子

Tel 090-6686-8317
Mail kasetzukizuna@gmail.com
Facebook www.facebook.com/kasetzukizuna/



▲武蔵野大の学生ボランティアさん達と。皆様からのご支援のおかげで、活動中に着用するビブスを制作することができました！ありがとうございました！



▲ロゴが完成しました！文字は石巻の書家・櫻田一濤先生に、デザインは仮設きずな新聞の頃から挿絵などを担当してくれている奈良県在住のボランティアの妙本咲季さんにお願ひしました！ステッカーを次号の新聞に同封予定ですので、お楽しみに！